

日本史にかかわる展示の中で、人気のある時代などはありますか。
展示に限ってのことではありませんが、大河ドラマをはじめ歴史小説などでも人気の高い、戦国期や幕末・明治期ではないでしょうか。

学芸員は博物館経営のどのあたりを担っているのですか。

各館によって異なりますので一概には言えませんが、利用者の満足
を創出し、市民生活の豊かさに資することが目的であるというミュー
ジウム・マネジメントの考え方からすれば、本来的には、博物館経
営の中核を担うべきであり、そうした意識を持つことが大事なのでは
ないかと思います。

博物館をより身近なものとするために、どのような工夫がなされていま
すか。

様々な講座や参加型のイベントを開催したり、公民館などでも講演
するなど、できるだけ地域社会と交わるようにしています。

博物館の観光資源化についてどのように考えますか。

博物館が観光に資することについて否定はしませんが、相乗効果が
得られれば良いと考えていますが、博物館は観光のために作られた
施設ではありませんので、組織体制の問題や、資料の保存と活用
の問題を十分に考慮していく必要があると考えます。

博物館は第一世代（保存志向）→第二世代（公開志向）→第三世代
（参加志向）と移り変わってきたとされますが、現在は新たな段階に移
行しているのでしょうか。

現在の国の方針は、様々な形での資料の「活用」に力点が置かれ
ていますが、これが段階移行と呼べるものかどうかは、今後の検討
が必要だと思います。

少子化・過疎化に対し、博物館はどのように対応すべきでしょうか。

当館も含め、多くの歴史民俗系の博物館が行っているところですが、
民俗資料を活用した回想法的な活動などをつうじた医療分野との連
携や、歴史・文化情報の発信と掘り起こしなどをつうじた地域づくり
の連携といった、博物館が蓄積している資料・情報を様々な形で活
用することが重要なのではないかと思います。

グローバル化や情報化が進むなかで、今後の博物館に新たに求められ
ると予想されることは何ですか。

これまで以上に、情報発信が求められるとは思いますが、それと同
時に、実物資料を所蔵し、実物資料に接することのできる施設とし
ての役割も求められるのではないかと考えています。

大学で学んだことは学芸員の仕事にどのようにいかされていますか。

私は、大学・大学院と日本史学を専攻しましたが、知識というより、
資料に対する考え方や扱い方、そしてなによりも、学術研究としての
研究のあり方・手法を学べたことは、学芸員としての根幹になって
いると思います。

学芸員課程の学生がぜひ訪れるべき、おすすめの博物館はありますか。

ハード面の制約があっても色々工夫している館はたくさんあります
ので、規模の大小にかかわらず、学芸員の配属されている、様々な
分野の博物館を訪問して下さい。

学芸員として勤務する上でのモットーや心得などがありますか。

モットーや心得とは少し違う気もしますが、私は前任者等のいない
中で一人学芸員として採用されたこともあり、市民の方々から「学
芸員がいると良いな」と感じていただき、「学芸員って必要だな」と
か「もっと学芸員がいると良いのに」と思っていたけるよう勤務し
てきたつもりです。

学芸員として働いていて一番困ったことは何ですか。

学芸員という仕事の認知度が高くなく、埋蔵文化財の担当者と間違
えられることが多いことでしょうか。

学芸員のどのような活動にやりがいを感じますか。

館蔵資料はもとより、他館との連携等の中で、通常では触れること
のできないような資料に触れる機会が数多くあり、そうした資料を後

世に伝える仕事に関われていることや、展示や教育普及活動をつう
じて、多くの方々に、楽しみながら歴史や民俗、美術に関する興味
関心を持てただけたと感じた際の喜びも、やりがいの一つです。

延岡市内藤記念館の 再整備構想・計画について

再整備構想・計画では通常業務に加えて、交流事業など幅広い活動の
実施が示されています。何人の専門職員で多岐にわたる事業をこなして
いくのでしょうか。力を入れたい特定の事業を優先して実施するなど
いった可能性もありますか。

人員の問題は館だけの問題ではありませんので、基本的には、現
在いる2名の学芸員が中心になって事業をこなしていくことになると思
います。また、マンパワーに限界はあるので、事業の選別や規模
を縮小する可能性はあると思います。

再整備構想・計画にボランティアの育成とありますが、どのような仕事
をボランティアの方にもお願いしたいと思いますか。

過去に、市民学芸員養成講座という形でボランティアの育成を行い、
修了者の方々には、展示作業の補助や展示ガイド、古文書の翻刻、
資料収集に関する情報提供など、現在も館の様々な活動に関わっ
ていただいています。ですから、新施設でも引き続き、同様の内容
に取り組んでいただきたいと思っています。

交流事業特有の難しさなどはありますか。

新施設の交流事業としては、大きく「市民」と「他機関」との交流
の二つの内容に分れており、特に市民との交流という点については、
一部の方だけでなく、できるだけ多くの方々に利用していただけるよ
うにすることが大事であり、難しい点であると考えています。

ミュージアムレーターによる情報発信が再整備事業の中に位置付けられ
ていますが、どのような内容を発信するのですか。

展示会や講座等のイベントの告知をはじめ、館蔵品の紹介など、館
の活動に関する様々な内容を発信する予定です。

資料のデジタル化について、どのような利用者を対象とするのでしょうか。
また、デジタル化した資料を展示・解説等に活用する計画などはありま
すか。

どのレベルの情報を発信するかについては今後の検討となりますが、
インターネットをつうじた情報発信も想定しておりますので、来館者
にとどまらず、不特定多数の方が利用の対象になるかと思います。ま
た当然のことながら、デジタル化した資料は展示等をはじめ、様々
な場面で活用することになります。

学芸員を増員するならば、どのような能力に長けた人材がほしいですか。

当館が扱う対象としている資料に応じ、各専門分野（考古・歴史・
民俗・美術など）の学芸員が配置できればと思っています。

再整備構想を立案する上で大変だったことは何ですか。

様々な意見や要望を集約させ、本市にとってより良い施設となるよう
に取りまとめたところでしょうか。

再整備構想・計画の中で、これまでと最も変わる部分や逆に引き続き守
らなければならないことはありますか。

これまで当館は博物館類似施設に位置付けられていましたが、最も
変わる部分としては、「登録博物館」ならびに「公開承認施設」を
目指す施設となる所かと思っています。なお、引き続き守らなければ
ならないこととしては、これまでの収蔵品はもとより、様々な博物館
活動をつうじて蓄積されてきた、館としての実績やネットワークなども
重要であり、今後の活動の中で、より拡充していければと考えていま
す。

11
September. 2018

Newsletter from Course
for Prospective Museum
Workers, Faculty of Letters,
Okayama University

学芸員課程 Newsletter

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)

発行日: 2018年9月30日

文学部学芸員課程 Web Site
http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw

contents

特集
先輩学芸員にきこう！
延岡市教育委員会文化課・延岡市内藤記念館
専門学芸員 増田 豪さん …… 1～4

特集

先輩学芸員にきこう！

延岡市教育委員会文化課・内藤記念館

専門学芸員 増田 豪さん

インタビュー企画「先輩学芸員にきこう！」
は、岡山大学を卒業した学芸員の方に、「博物
館概論」受講生（文学部、理学部、教育学部ほ
か約80名）から寄せられた質問に答えていただ
くものです。6回目となる今回は、日本史学が
ご専門で、現在再整備中である延岡市の内藤記
念館専門学芸員の増田豪さんに登場いただきま
す。
こうした企画がきっかけで生まれる出会いも
ありました。Newsletter第5号（2015年）で質
問に答えていただいた八代市立博物館未来の森
ミュージアム学芸員の鳥津亮二さん（専門：日
本史学）に、先日初めてお目にかかる機会を得
ました。だれにインタビューするかは、各種の
専門分野にわたる文学部学芸員課程専門委員の

（文学部准教授 光本 順）



展示解説風景

学生のみなさんへ — 増田学芸員からのメッセージ —

岡山大学の卒業生で学芸員として活躍されている方は、全国に数多くいます。今も昔も学芸員の募集は必ずしも多いとは言えませんが、これだけ卒業生が全国にいるということは、学芸員になるための素地を形成する環境として、岡山大学は非常に恵まれた環境なのだと思います。ぜひ同業者として、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。頑張ってください。

博物館概論受講生による卒業生へのインタビュー

延岡市教育委員会文化課

延岡市内藤記念館

先輩学芸員にきこう！

専門学芸員 増田 豪さん



プロフィール	1974年	北海道札幌市に生まれる
	1997年	岡山大学文学部史学科卒業。専攻：日本史学
	1999年	岡山大学大学院文学研究科修了。専攻：日本史学
	2000年～	延岡市教育委員会文化課・内藤記念館 学芸員
	2008年	宮崎公立大学非常勤講師（兼務）「宮崎地域研究」担当
	2010年～	九州保健福祉大学非常勤講師（兼務）「博物館資料論Ⅰ」「博物館展示論Ⅰ」担当
	2011年～	延岡市教育委員会文化課・内藤記念館 主任学芸員
	2016年～	延岡市教育委員会文化課 専門員（係長職）・内藤記念館 専門学芸員

学芸員になるには

学芸員になるまでの推移について教えてください。

修士課程修了時には就職を決めきれず、1年間、岡山県内のいくつかの自治体史編纂事業や大学図書館の池田家文庫絵図類画像データベース作成事業のお手伝いさせていただいていましたが、その年に、たまたま大学に募集案内が届いていた延岡市の採用試験を受け、学芸員になりました。

学芸員になろうと思ったきっかけは何ですか。

歴史や文化に関わる仕事ができる選択肢の一つとして、学芸員という職種があり、実物の歴史資料に触れる機会が多く、また、子ども達をはじめ、多くの方々に専門的な知識を身近に感じてもらえるように伝えられる仕事だと思い、採用試験を受けました。

学芸員を目指す上で大切なことは何ですか。

学芸員に求められる役割は多岐にわたりますが、まずは自身の専攻する学問分野における専門性を高めていくことが大切だと思います。また、本気で学芸員を目指すのであれば、就職するまでに多くの歳月を要するかも知れない、という覚悟は必要です。

学芸員になるために学生時代にしておくべきことは何ですか。また資料に関すること以外で勉強しておいた方がよいと感じる内容がありますか。

温湿度管理や照明に関する機械設備についての知識をはじめ、学芸員は雑芸員とも呼ばれるように、様々な知識や経験を要求されることもあります。ですから、どんなことにでも積極的に取り組まれておくとう良いと思います。

学芸員の数が不足している専門分野はありますか。

採用については、各館の属する組織全体の中で検討される事ですので、不足しているからと言って、学芸員の募集につながるわけではありません。しかし、現場の実状としては、どの分野も学芸員が不足しているのが現状ではないでしょうか。

学芸員になるためには教員免許を取得していた方が有利ですか。

学芸員採用に有利になるかどうかはわかりませんが、中学校や高校の教員として採用してから、博物館（美術館・科学館などを含む）に異動・配属させている自治体もありますので、取得できるのであれば取得していた方が良いと思います。また、勤務する上でも、学校見学への対応や出前授業などもありますので、博物館教育と学校教育では異なる部分もありますが、教育に関する講義を受けておいて損はないと思います。

学芸員向きの人物像などはありますか。

日本の学芸員は、欧米では分れている、キュレーターやコンサバター、ミュージアム・エデュケーター、レジストラー、エキシビット・デザイ

ナー、エディター、フォトグラファー、ライブラリアンなど、様々な役割を求められます。ですから、それぞれの個性を活かした学芸員を目指していただければと思います。

一般的な公務員になった際、学芸員資格をいかすことはできますか。

自治体によっては、学芸員として採用してなくても、学芸員資格を有している職員を博物館等の施設に勤務させ、学芸員的な役割を担わせているケースもあります。また、学芸員資格を取得する上で学ばれた博物館学の内容は、様々な場面で活かすことができるのではないかと思います。

自然系を専門とする人間でも文化財関係の仕事に携わることは可能ですか。

どのような文化財関係の仕事イメージしているのかわかりませんが、記念物（遺跡、名勝地、動物・植物・地質鉱物など）は文化財ですし、IPMなどの保存科学に関する分野や、資料に関する科学分析などの専門職もありますので十分可能だと思います。

勤務地に関する地域誌は、採用が決まってから学ぶのですか。

自治体や機関によって異なるため一概には言えませんが、採用試験の段階で、当該地域に関する専門的な知識を求めているケースは、そこまで多くはないように思います。私の場合、試験段階ではあくまで延岡市の歴史・文化の概要を把握し、本格的には仕事をしながら学んだような状況になります。

学芸員の仕事

一日の主な仕事について教えてください。

収蔵庫や展示室に常時いて、資料を扱っていたり、論文を読んだり書いたりしているわけではなく、基本的には事務処理をはじめとするデスクワークが主な一日の仕事になります。ちなみに、私の現在の業務内容としては、収蔵資料の管理及び活用に関することや、市内外からのレファレンスへの対応、主催している講座や講演依頼への対応、館の展示に関すること、新施設の整備に関すること（昨年は実施設計に伴う業者との協議など）、他館との連携に関することなどがありますので、こうした業務を適宜行いながら、毎日を過ごしています。

貴館の職員の構成を教えてください。

当館の場合は、市の教育委員会文化課の業務の中に、館の運営が含まれていますので、厳密に館のみの職員にはありませんが、今年度は、課長（館長）1人、文化財係6人（係長1・埋文2・学芸2・建築技師1）、文化振興係6人（係長1・事務4[再任用2を含む]・臨時1）の計13人という体制になっています。

学芸員に異動はありますか。

それぞれの設置主体の考え方や人員配置状況などによって異なるので一概に言えませんが、今のところ私は異動したことはありません。

特別展などがないときにはどのような仕事をされていますか。

展示に関わる業務に追われ、後回しになっていた業務の処理や、次の展示会に向けての企画立案や準備などになります。

貴館では学芸員間で仕事の分担などはなされていますか。

仕事の分担は一応、歴史・美術に関する分野と、民俗に関する分野というように専門分野によって分担しています。なお、特別展・企画展においては、広報作業も含め、基本的には担当の学芸員1人が中心となって担い、若干、他の職員がサポートするという体制で進めています。

人文系と自然系の学芸員とで仕事面に違いはあるでしょうか。

専門分野ごとに、資料の収集、整理保存、調査研究、教育普及の具体的な方法は異なりますが、学芸員として求められている仕事の本質は同じと考えて良いかと思います。ちなみに私は動物園や水族館勤務を目指す学生さんたちに博物館資料論や博物館展示論を教えています。

博物館の基本的機能のうち、最も大切と思われるものはありますか。

収集、整理保存、調査研究、教育普及はいずれも相互に関連し合う機能ですので、どれも同じように大切です。

貴館の来館者の年齢層はどのような内訳ですか。若者の来館者数に変化はありますか。

年齢別の来館者調査を実施していないので、あくまで私の印象ですが、団体見学などを除く自由来館者の年齢層については、高齢者層の占める割合が高いように感じています。また、若者の来館者数については大きな変化を感じていませんが、特別展・企画展の来館者について言えば、企画の内容によって、年齢層の違いはあります。

貴館の来館者は地元の方が多いですか。国内外の観光客による利用も多いですか。

地域別の来館者調査を実施していないので、あくまで私の印象ですが、地理的要因もあり、国外からの来館者はせいぜい年間十数名程度かと思います。なお、観光目的の市外からの来館者は、ツアー見学もあるので、一定数の割合を占めているように感じています。

貴館は多岐にわたる人文系資料を収蔵されていますが、そのメリットやデメリットなどはありますか。

メリットは、平常展における資料の入れ替えをはじめ、収蔵資料に応じた多様な企画展・特別展を実施することが可能となり、興味関心の異なる多くの方々に館を利用していただけるなど、館の魅力を高めることができることかと思います。デメリットとしては、現在の当館の体制では、学芸員の専門分野外の資料も取り扱うこととなり、資料の持つ様々な情報や魅力を十分に引き出せているかどうかということになるかと思います。

歴史資料はどのように収集するのですか。

予算上の問題から購入することは稀で、基本的には所蔵者の方からの申し出を受け、寄贈・寄託などによって収集しています。但し、この機会を逃すと二度と収集できない、当館にとって価値のある資料と判断した場合、補正予算を計上し、古書店などから購入したケースはあります。

自分の専門外の資料を扱うことは多いですか。

多いです。資料の取り扱い、学芸員に求められる重要な技能ですので、専門外の資料であっても、しっかりと取り扱えるよう勉強しておいてください。

学芸員の仕事の内、調査研究にあてる時間はどのくらいありますか。

勤務時間内に、十分に確保することは難しいかも知れません。しかし、調査研究は学芸員にとっても、博物館の機能や魅力を高めるた

めにも欠かせませんので、そのための時間は「ある」ものではなく「つくる」ものだと思います。

調査研究と他の業務を両立する際に意識していることはありますか。

他の業務が疎かにならないようにしつつ、調査研究の成果をしっかりと発信し、収集や整理保存、教育普及、展示など、館の他の機能にも成果が波及するように心がけることでしょうか。

来館者と直接対話する機会はどの程度ありますか。

当館の場合、特別展・企画展などにおけるギャラリートークや、平常展における団体見学の案内、また講座等も学芸員が行っているため、来館者と直接対話する機会は非常に多いと思います。

展示やワークショップを企画する際、どのようにして内容を決定していますか。

当館の場合、基本的には担当する学芸員が内容等もすべて企画立案し、文書決裁を受けることで実施が決定されています。

人を惹きつけるための展示の工夫はありますか。

資料そのものが多くの人を惹きつける場合もありますが、資料配置やキャプションのデザイン、照明など、展示空間そのものをデザインしたり、ハンズオンやワークシートなどをつうじて、来館者の能動的参加を促す仕掛けを行うなどの工夫をしています。

資料の解説において工夫されている点がありますか。

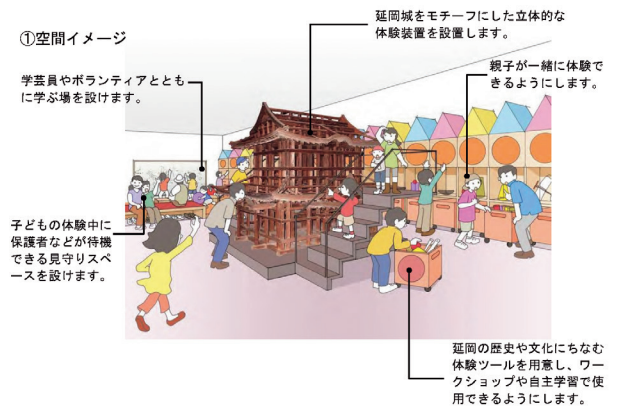
私は、来館者の方に、博物館では資料の解説を読んだり、聞いていただくより、実物の資料に接していただきたいと考えているので、資料そのものについての興味関心をより持っていただけるような解説となるよう工夫しているつもりです。

博物館に子供向けの娯楽的要素（楽しみながら学ぶ）が求められることも多い昨今のように思いますが、大人の来館者のニーズとどのように折り合いをつけるのですか。

子供向けだからといって、専門的な内容を排除している訳ではありませんので、大人でも楽しみながら学んでいただけるように心がけているつもりです。

目の見えない方に展示を楽しんでいただくための工夫としては、どのようなものがありますか。

目の見えない方だけが対象というわけではありませんが、これまで企画展の際には、体験用の能面に触れたり、つけていただくコーナーなどを設けていました。また新施設では、堅穴住居再現による古代の暮らし体験、古民家再現による昔の暮らし体験、集合住宅の再現による高度成長期のくらし体験という、3つの原寸大の環境再現展示によって構成される、体験展示室を整備する予定としており、目の不自由な方にも資料に触れていただき、楽しんでいただきたいと思います。



内藤記念館 体験コーナーの再整備計画

延岡市教育委員会文化課・内藤記念館編 15
『内藤記念館再整備 基本構想・基本計画』延岡市教育委員会より
(http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/tempimg/150609083750201506101803470f.pdf)